

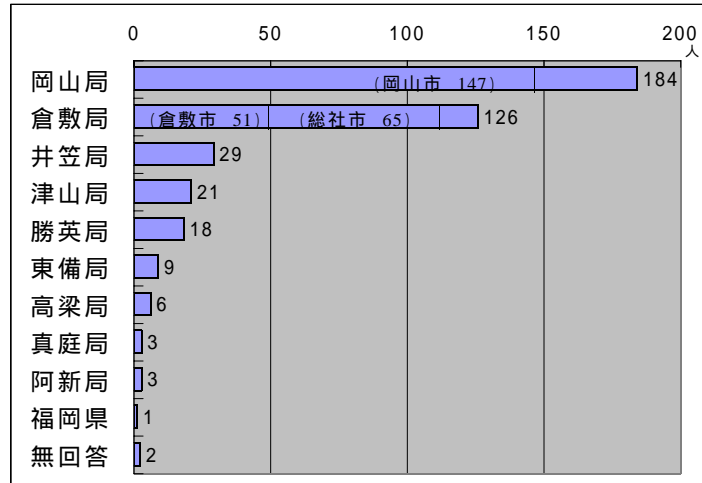
# 食の安全・安心に係る県民アンケート（集計結果）

平成15年2月22日（土）、岡山県立大学（総社市）で開催した「食の安全を考える県民の集い」の参加者からいただいたアンケートの集計結果です。

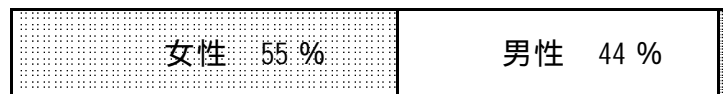
402 / 570（回収率71%）

## 参加者（回答者）の属性

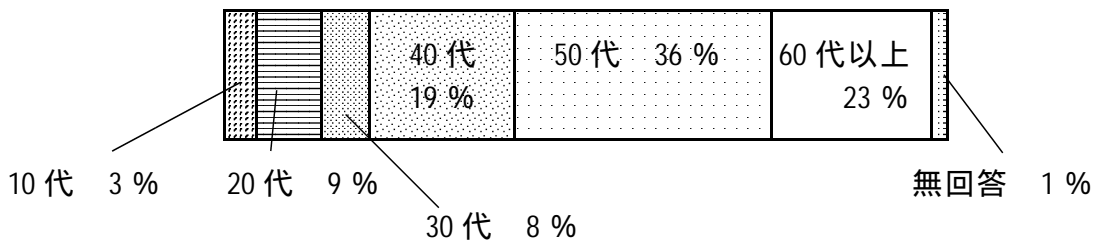
### 1 住所地（振興局管轄区域別）



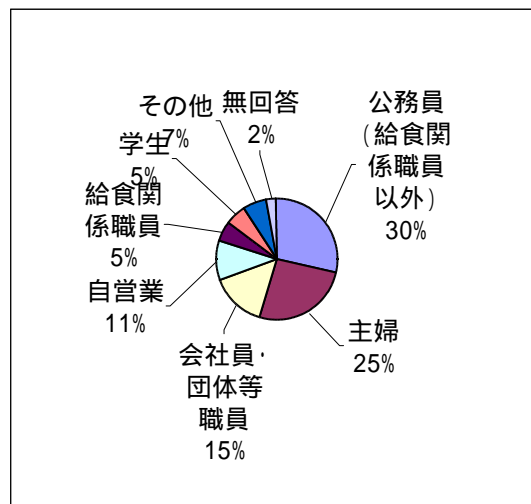
### 2 性別



### 3 年代

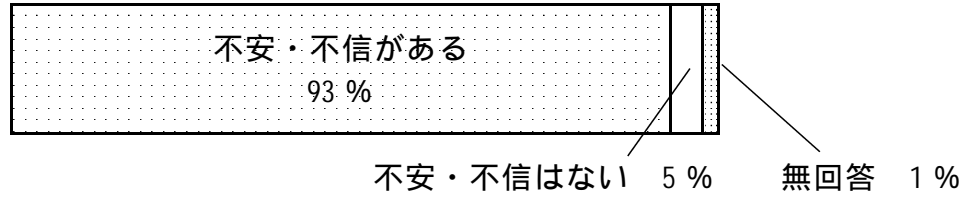


### 4 職業

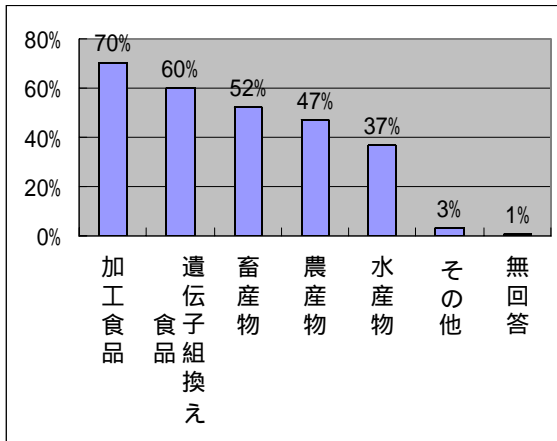


# 食に関する意識調査

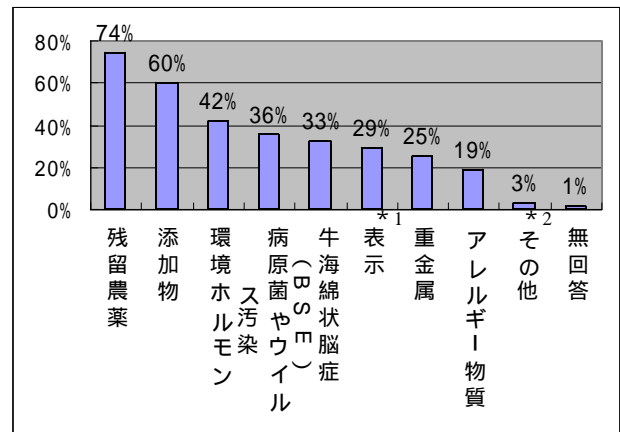
## 1 食に対する不安・不信の有無



### 1-1 不安・不信のある食品の種類 (複数回答)



### 1-2 不安・不信の内容 (複数回答)



#### \* 1 「表示」の具体的内容

(表示全般の信頼性について)

- ・偽装表示・正しい表示をしているかどうか
- ・都合の悪いことは表示しなかったり、偽ったりしているのではないかな

(産地表示に関することについて)

- ・日本茶に産地表示がない。二重産地(例えば加工地を産地と表示するなど)
- ・産地偽装・輸入した食材を日本で加工した場合に、原産国が記入されない点
- ・加工食品の産地表示など

(期限表示に関すること)

- ・スーパー等販売の生鮮食品の消費期限があてにならない
- ・期限のあいまいさ
- ・期限表示

(添加物の表示に関すること)

- ・無添加と書いてあっても、そのほかに有害なものが入っている。安全そうで安全じゃない。
- ・香料の中身が解らない

(その他)

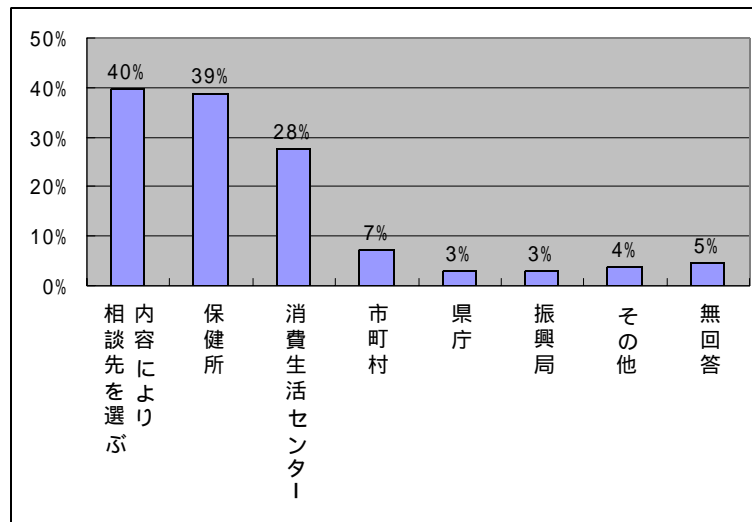
- ・生産者がはっきりしない
- ・栄養表示・数量に関する表示
- ・牛カルビと言いつつ、合成肉だった

#### \* 2 「その他」の具体的内容

- ・生産者、供給者の問題意識
- ・畜産物や養殖魚の抗生物質やホルモン剤
- ・添加物の基準を守っているか
- ・儲けのために安全性をおろそかにする企業の姿勢
- ・放射線の照射
- ・食品の安全性の検査が適正になされているか。検査体制(人員等)に不安を感じる。
- ・まだ明らかにされていない、人体へ悪影響を及ぼすものがあるのではないかな
- ・安全性に対するデータが不足しているのではないかな
- ・遺伝子の異常
- ・Cd米
- ・レジオネラ

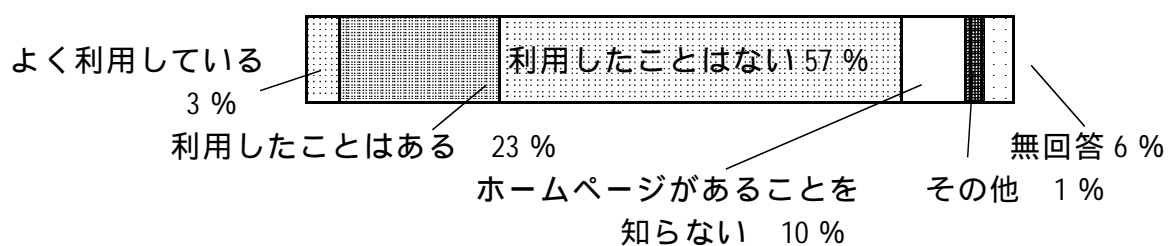
BSEに端を発し、広がった食に関する不安、不信であるが、BSEに対する不安・不信を感じる参加者は全体の3割にとどまった。これは、BSEの発生から1年以上が立ち、BSEへの理解が深まった結果であると推察される。一方で、残留農薬、添加物に不安・不信を感じている参加者が過半数を超える結果であった。これら不安・不信を払拭するためには、生産者、流通加工業者自身の努力とともに、行政による監視指導や、消費者・生産者・流通加工業者への啓発活動が必要であると推察される。

## 2 食の安全・安心に係る相談先（行政機関）（複数回答）



内容により相談先を選ぶと答えた参加者が40%と最も多く、ついで保健所、消費生活センターという順番だった。しかしながら、どこへ相談すればよいのかわからないという意見もあり、担当機関がどこなのか、情報提供を進める必要があると考えられる。

## 3 食の安全・安心に関する岡山県ホームページ利用状況



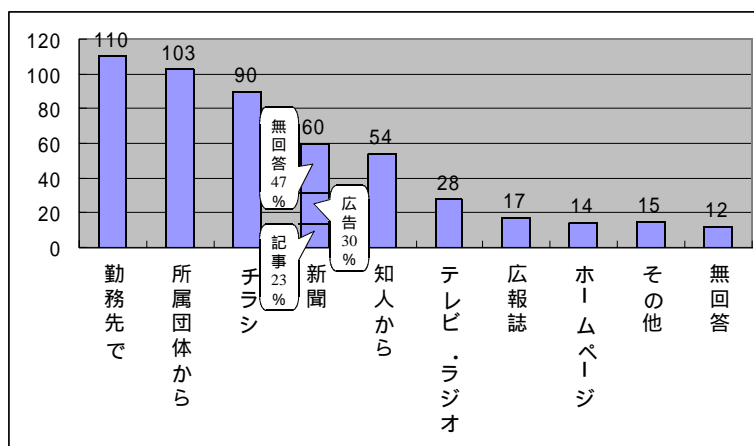
### 「その他」の具体的内容

・HPは知っているがこの情報の掲載は知らない ・パソコンを使えない ・見にくい、すぐ出てこない

ホームページを利用したことがない、知らないと答えた参加者が過半数を超えた。県民が求めている情報の掲載、時機をとらえた更新を続けるとともに、さらなる周知活動を行う必要があると思われる。なお、各年齢層への浸透度（「よく利用している」または「利用したことはある」を選択した参加者の割合）は、10代以下15%、20代27%、30代32%、40代36%、50代31%、60代以上12%だった。

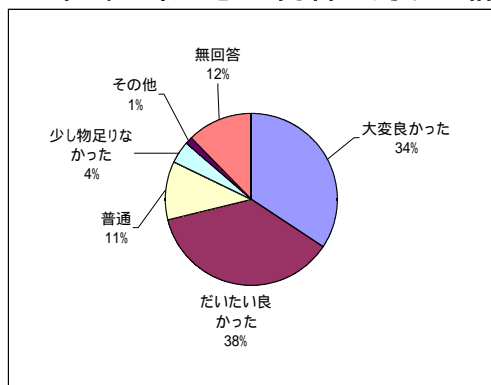
## 「県民の集い」について

### 1 「県民の集い」の開催を知った方法（複数回答）

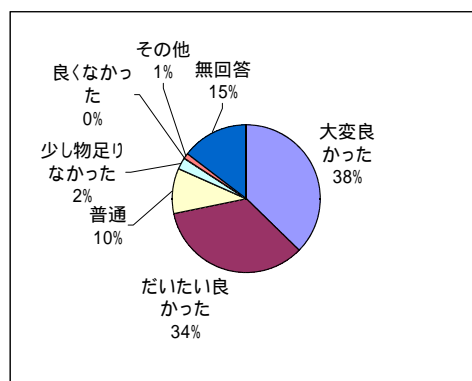


勤務先や所属団体で開催を知ったという答えが多く、一般県民の参加者を増やすためには、さらに広く呼びかけを行う必要があると思われる。一方、知人から知ったという回答数がテレビ・ラジオからという回答数を上回っていた。マスメディアを通じた情報提供と共に、子供会、婦人会などの地域社会を巻き込んだ形での周知活動が有効ではないかと推察される。

### 2 「県民の集い」の内容に対する評価

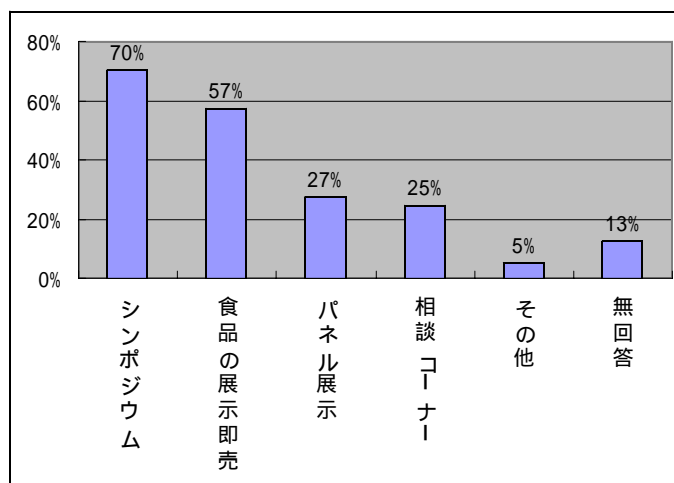


### 3 「シンポジウム」の内容に対する評価



「集い」「シンポジウム」とともに、「大変良かった」と「だいたい良かった」を合わせると、ほぼ7割の参加者が、好意的な評価を示した。

### 4 今後の「県民の集い」に希望する内容（複数回答）



## 「自由記入欄」に記入していただいた主な意見・要望・提言など

### 1 「県民の集い」について

#### (1) 今回の集いに関する意見・感想(100件)

- ・本日の集いに県知事自らが参加されていることが、大変有意義だと思いました。
- ・吉良先生の進行が良く、会場からの意見が良く出たのが成功だと思います。
- ・子供の食事に対する話が良かったのですが、若いお父さんお母さんたちの参加が少ないのが残念に思いました。
- ・スローフードに関心があり参加しましたが、安富さんの発表をお聞きし生産者としても自信を得ることができました。意欲を持って生産に望みたい。
- ・国産物を大切にしたいが、価格面からつい外国産を購入してしまう。自分の中のジレンマである。

#### (2) 今後の集いに関する要望・提言(73件)

- ・今日のようなわかりやすい催しを何度も開いてほしい。
- ・安全な食品をどのように生産されているのか、また製造されているのかを実際に語って欲しい。
- ・せっかくの機会だから即売品を増やして欲しい。
- ・試食コーナーはありがたかった。売らんかなでないのは誠実さが伺えた。
- ・季節に応じた新鮮な各地の特産を希望する。今回より種類が増えることを期待する。

#### (3) 知りたい情報(34件)

- ・郷土食材を利用した新しい調理法について。
- ・岡山県の特産物一つ一つの紹介や現状、今後などについて詳しく知りたい。
- ・サプリメントや保健食品に関する情報が得たい。
- ・添加物、農薬等の安全基準は、どのようにして決めているのかを知りたい。
- ・輸入品の取扱とその経路が知りたい。

### 2 行政への意見・提言・要望

#### (1) 情報提供・相談体制など(50件)

- ・どこのスーパーに行けば国産の農産物が手にはいるのか情報がほしい。
- ・正しい情報を素早い対応でお願いします。
- ・ポジティブなデータ、ネガティブなデータを分け隔てなく公にして欲しい。
- ・「気にしている人に、情報を提供」も大切ですが、「気にしていない人に、問題を気付かせ、情報提供」も大切だと思う。難しいが。
- ・情報化社会の中で、何が正しく、何が間違っているのか、消費者の判断を助けるために行政が情報を流すよう期待する。
- ・情報を知る方法(県の窓口など)を多く示して欲しい

#### (2) 農林水産物の生産・流通(45件)

- ・学校給食に岡山のものを使いたい、なかなか量の確保や流通などの問題があり、お願いしても使えないことがあり、やるせなさを感じる。
- ・岡山が全国に誇れる農林水産物や加工品を、岡山県推薦ブランドとして立ち上げてほしい。
- ・自給率向上のため農業振興(地産地消の推進)。
- ・安全性を重視した生産者の取り組みに対する行政の支援に期待する。
- ・安心して食べ物を買って、食べられるように。生産地のチェックも行政で行うことを望む。

#### (3) 規制・監視・検査(32件)

- ・無責任な生産者や業者の作ったものは消費者は拒否する。産業界を守るためにも、厳しい基準や監視システムが必要。
- ・違反に対してきびしい態度で望む事により、行政の信頼が増すと思います。
- ・表示をしっかりとみなくても、どこでも、安心して購入できるようにしてほしい。
- ・輸入食品の残留農薬の検査を、県独自で実施し、結果を公表して貰いたい。
- ・食品表示に消費期限や生産地のほかに栄養成分や健康への影響も一緒に表示されると、日常生活の中で知識が身に付くと思う

(4) 食育(16件)

- ・もっと食の教育の充実を。特に若い親世代。次代を生きる子供たちに本当に安全で地域色豊かな食事を提供してもらえるように。
- ・学校に食の指導をする人材を必ず置き、子供の時から食への関心を深めるようにしてほしい。

(5) その他(39件)

- ・道をつくるのを後回しにしてもランチルームを作った方がよい。人を育てるのにお金と手間を惜しんではだめ。
- ・県全体として、安全で安心できる食作りを進め、全国に売り出してほしい。
- ・行政に対する信頼性を高めるようにしてほしい。行政への信頼性が低いので、行政が行う対策が信用できない
- ・食の安全、安心を考えるには、生産者と消費者が同じテーブルについて議論するべきである。
- ・加工業者、小売業者のモラルを向上させるような施策を。
- ・自分の健康だけでなく子孫のためにも有機無農薬栽培や地産地消など、もっと真剣に考えてほしい。